

第三者意見

各社のレポートを専門的観点からご覧になられている緑川芳樹氏に、2003年から第三者意見をいただいています。今年の「CSRレポート2005」冊子版および詳細版(web)については、2005年2月から7月にかけて4度にわたってレビューをいただき、掲載内容と活動についてのご意見をいただきました。ご意見は、できる限り本レポートに反映しております。今回反映できなかった部分についても、今後の活動および次年度のレポートに活かしてまいります。



第三者意見書



グリーンコンシューマー
研究会代表
バルディーズ研究会
共同議長

緑川 芳樹

はじめてのCSRレポートの基本的な評価や課題については、すでに冊子版「サントリーCSRレポート2005」で述べましたが、冊子版の目次に明示されているホームページ版の掲載内容6点のうち「CSRレポート2005詳細版」をみて、「水と生きる」サントリーの自然と環境へのこだわりを改めて実感しました。

<開示情報は充実>

CSRレポートへの転換によって環境報告が簡略化されるのではないかと危惧があり、そのような傾向も一部に見られます。しかし、前年の「サントリー環境活動レポート2004」の40頁に対して今回の冊子版CSRレポートは54頁であり、環境報告の頁数も実質的にほとんど前年との差は見られず、しかも、この詳細版では社会性報告も環境報告も情報量はかなり増えています。企業倫理綱領全文を掲載し、酒類メーカーとしての責任、お客様との環境コミュニケーションの各項目は1頁から2頁、社員とともに2頁は4頁に、環境経営2頁は3頁に、という増頁が目立ちますが、そのほか本文や図表の追加が随所に見られます。

<今後に望むこと>

情報の内容については、このホームページ版情報開示のためのレビューを経て掲載にいたったものもありますが、今後の課題として残されたものもいくつか見られます。例えば、内部通報システムや通報者保護など各社もシステム設置を開示していますが、パフォーマンス情報開示にまで一歩進める姿勢が望まれます。また、「社員とともに」の情報量は増えていますが、女性登用の計画や行動計画を提出した次世代法関連の仕事と家庭の両立支援など、一つひとつPDCAシステムをつくり、開示する方向を強めていただきたいと思います。環境問題と同様、「継続的改善」はCSR全般についても正にキーワードといえるでしょう。サプライチェーンマネジメントを構築し、取引先とのコミュニケーションを強める活動や、多様に展開されている自然保護、社会・文化活動の体系化は、今後に求められる重要な、あるいは必要な課題として積極的に取り組んでください。環境活動に関しては、環境効率の向上が見られますが、CO₂排出量の削減が大きな課題として残っています。地球温暖化防止のパフォーマンス向上は、生産量増大のなかで困難な課題ではありますが、今後本格的な取り組みを期待いたします。

第三者意見をいただいて

「水と生きる」というメッセージは、様々な面で「社会との約束」を意味すると認識しています。ご提言いただいた「PDCAシステムをつくり、情報開示を強化していくこと」は、まさにその約束を具体化し、その達成に向けての歩みを評価していただく重要な条件であると考えます。

ご指摘いただいた人事関連やサプライチェーン、あるいは環境活動も含めて継続的改善を目指した取り組みをより強化するため、今後、社内の各部とともに真剣に取り組んでまいります。

私どもCSR推進部はこの4月に新設されました。弊社の経営全般にわたる活動をご紹介する本レポートも初めての「CSRレポート」であり、記載内容などについてはまだまだ改善の余地があるものと存じます。ご提言いただきましたことを真摯に受け止め、「水と生きる」企業として、ステークホルダーの皆様からサントリーならではの役割を認めていただけるよう、様々な意味での「水」への取り組みの中で、どこをより強化していくべきかを常に考え、さらに積極的に活動を展開してまいります。



サントリー株式会社
CSR推進部長
内貴 研二